

令和7年度

マイスターハイスクール事業成果発表会

DX時代をリードする高度介護人材の育成

-愛知から始まる高校福祉の新潮流-

管理機関:愛知県

事業実施校:愛知県立古知野高等学校

目次

- | | | | | | |
|---|--|---------|----|--|------------|
| 1 | | 本校の概要 | 7 | | 学びや連携の深まり |
| 2 | | 教育課程 | 8 | | 非認知スキルの可視化 |
| 3 | | 国家試験合格率 | 9 | | 自走に向けて |
| 4 | | 進路状況 | 10 | | 管理機関より |
| 5 | | 今年度の取組① | | | |
| 6 | | 今年度の取組② | | | |

校訓
礼節
向学
健康

1 沿革

1949(昭和24)年:
小牧高等学校古知野分校として開設。(定時制1学級)

1952(昭和27)年:
古知野高等学校として独立。(定時制3学級)

1997(平成9)年:
介護人材の需要拡大という社会的要請を受けて、福祉科が開設された。全日制4学科と定時制(普通科)の併設となる。

2 各学科の概要

地域ビジネス科 ITビジネス科	4学級 160名	マーケティングコース、 観光コース、プログラミングコース、ICTコース
生活文化科	1学級 40名	被服コース、食物コース
福祉科	1学級 40名	介護職員初任者研修及び 介護福祉士養成課程

3 福祉科スクールポリシー

- 福祉・介護の専門的な知識と技術に基づき、状況に応じた介護を実践できる人
- 互いの価値観を認め、相手の立場に立って考えられる人
- 多様な人と関わるためのコミュニケーション方法を身に付け、実践できる人
- 福祉・介護の専門職として、課題解決に向けて他者と協働できる人
- 地域に貢献しようとする強い意志を持ち続けることができる人



1 教育課程



…介護福祉士養成課程に必要な科目

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1年生	現代の国語		言語文化		公共		数学 I		科学と人間生活		体育		英語コミュニケーション I		家庭総合	社会福祉基礎	介護福祉基礎	生活支援技術			介護総合演習	介護実習	こころとからだの理解			HR					
2年生	文学国語		歴史総合		数学 I		体育		音楽		英語コミュニケーション II		家庭総合	社会福祉基礎	介護福祉基礎	コミュニケーション技術	生活支援技術	介護過程	介護総合演習	介護実習			こころとからだの理解	HR							
3年生	文学国語		地理総合		数学 A		生物基礎		体育		英語コミュニケーション II		コミュニケーション技術	生活支援技術			介護過程	介護総合演習	介護実習			こころとからだの理解	福祉情報	HR							

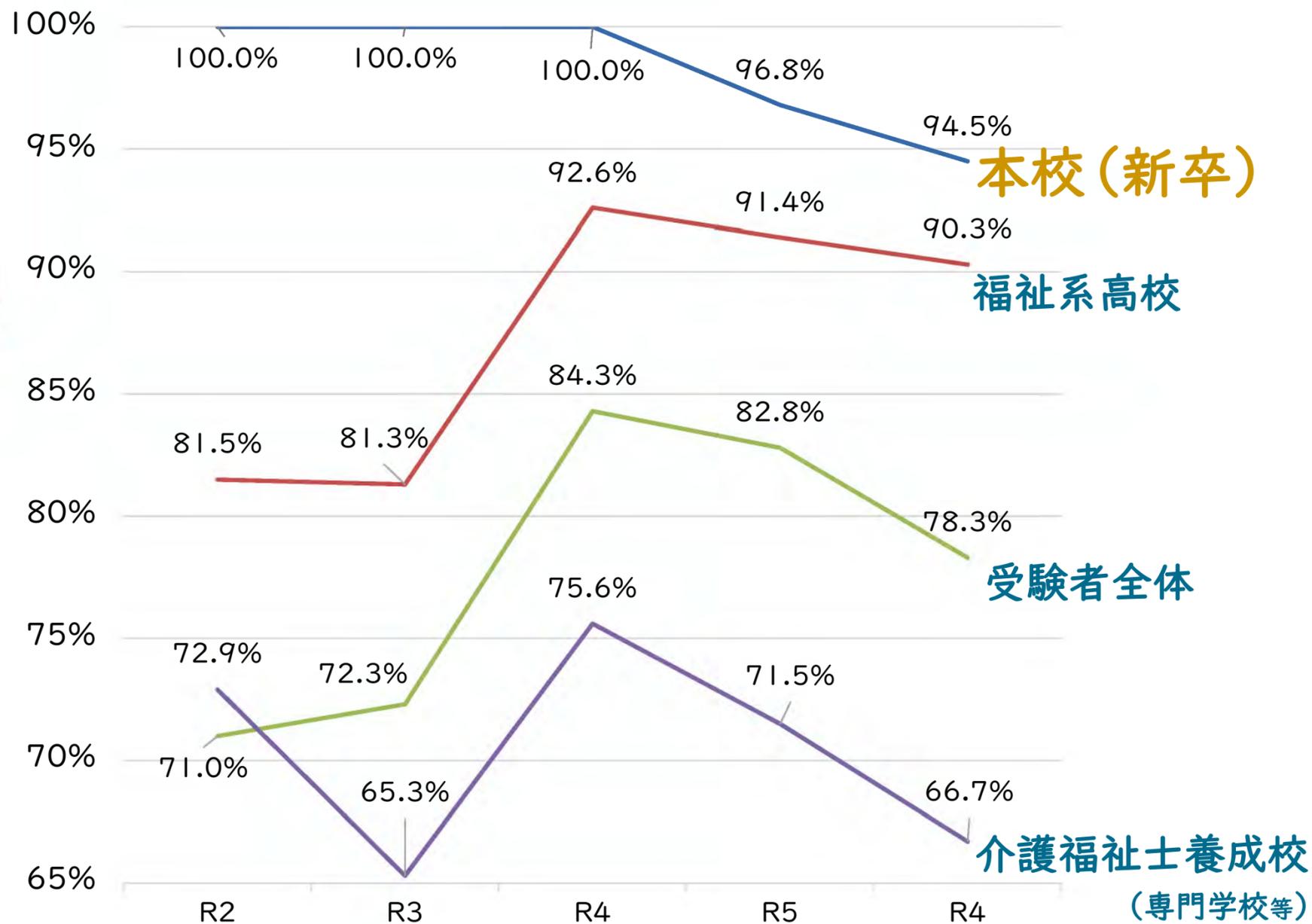
- ・「保健」は、「こころとからだの理解」の履修をもって替える。
- ・「情報 I」は、「福祉情報」の履修をもって替える。
- ・「総合的な探究の時間」は、「介護総合演習」の履修をもって替える。

介護実習 (455時間/3年間)

1年生	9日間	障害者支援施設(4日)、高齢者通所施設(5日間)	2単位
2年生	19日間	高齢者通所施設(10日間)、高齢者入所施設(9日間)	5単位
3年生	24日間	高齢者入所施設(24日間)	6単位



1 介護福祉士国家試験合格率の推移（過去5年間）



平成9年度の開設以来、
約**900**名の
介護福祉士を
地域に輩出している。

2 福祉科の進路状況(過去5年間)

過去5年間の卒業生



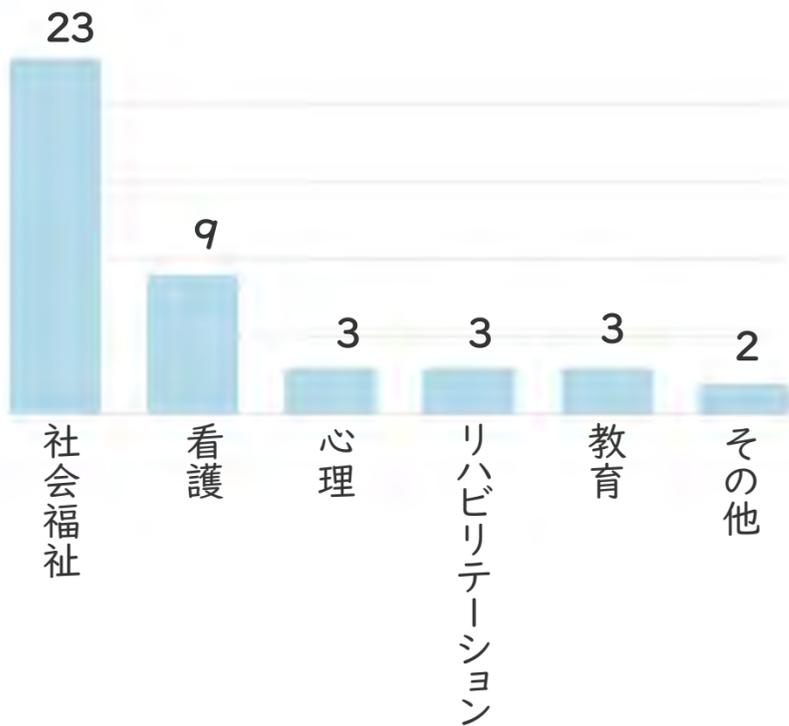
進路類型



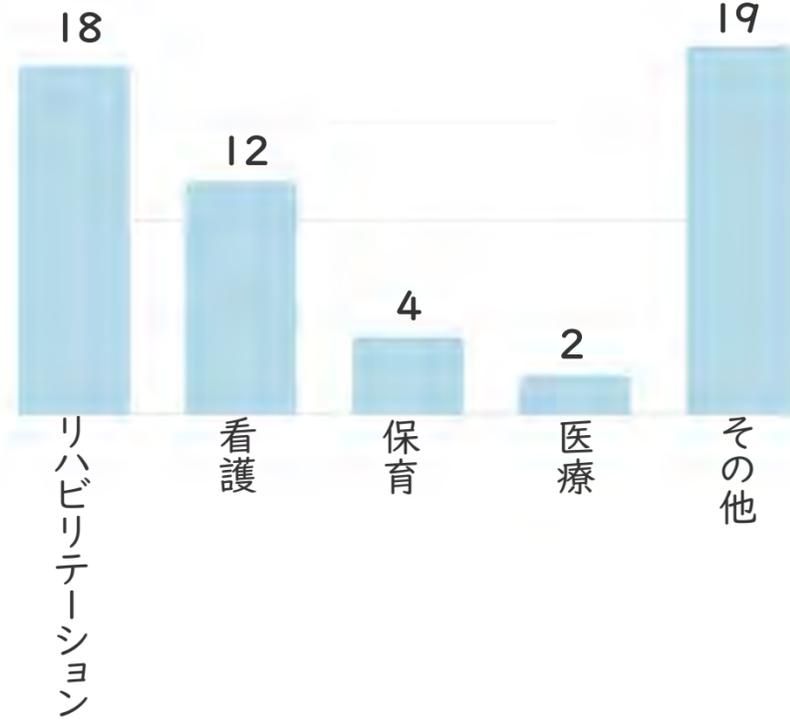
医療福祉分野への進路が約9割!!

進学者内訳

【大学】



【短大・専門】



就職者内訳



1 科学的裏付けに基づく介護 (EBC)

01 介護×ICTの実践 -テクノロジーの善き使い手に-

1年生は産業実務家教員の授業で最新のICT・IoT技術を学んでいる。また、2年生は先進的に介護DXを実践されている施設への見学を通じてテクノロジー活用力の育成を図った。



産業実務家教員による授業



音声入力による介護記録

02 科学的介護の実際 -データを活用した介護過程の展開-

1年生は、特別養護老人ホームの施設長から、生活場面における科学的介護の実践を学んでいる。2年生は、2名の大学教員によるリレー講義を通じて介護データの分析を学び、情報活用能力の向上を図っている。



産業実務家教員による授業



最新福祉機器の体験

03 認知症ケア最前線 -科学的アプローチで症状改善-

2年生は、認知症グループホームの施設長から回想法やユマニチュードなど非薬物療法を学び、認知症の人を尊重したケアを習得している。秋の介護実習では学んだ知識と技術を生かし実践を重ねた。



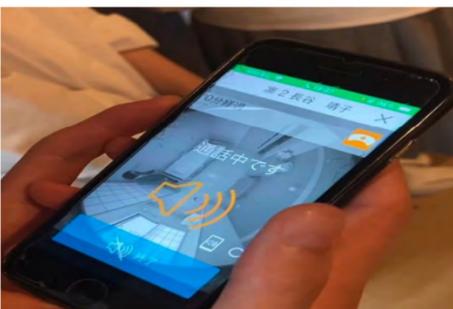
産業実務家教員による授業



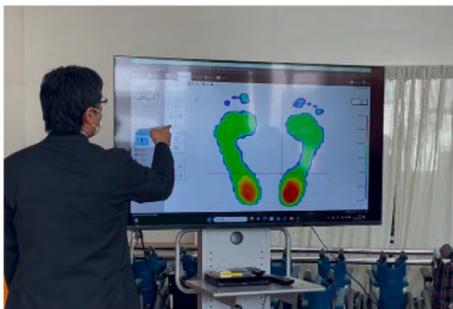
認知症サポーター養成講座



先進事例を学ぶ施設見学



見守りシステムの体験



大学教員のリレー講義



介護データの分析



当事者理解を進めるワーク



介護実習におけるケア実践

現行の学習指導要領では、「福祉用具や介護ロボット等に関する学習の充実」が示され、介護ロボットの意義や活用を理解し、利用者の生活を豊かにする視点が求められている。MHSでは、単に“知る”“使う”段階にとどめず、歩行・睡眠・体圧などの介護データを根拠に、目の前の対象者にどのような支援が必要かを考える学びへと発展させている。

ロボットや機器はあくまで手段であり、「何のために使うのか」を理解した上で活用できる人材の育成を重視している。

2 課題解決型学習 (KOCHINO PBL)

**04 「つながり」を実感できる地域づくり
-共に生きる力を育む-**

江南中部地域包括支援センターと連携して、認知症カフェの企画・運営を行っている。
また、映像系専門学校との協働により、認知症VRコンテンツの開発を進めている。



地域会議への参加



認知症カフェの企画・運営

**05 福祉・介護の魅力発信
-THINKER to DOER-**

地元の介護施設や福祉を学ぶ高校等と連携して福祉・介護の魅力をSNSや冊子で発信する活動を進めている。
取組の様子は、FUKUSHI FESや社会福祉学生HERO'sで発表し、県内の高校生にも成果を共有する。



他校とのコラボ動画作成



SNSを活用した魅力発信

**06 元気で笑顔あふれるまちに
-高校生考案の健康づくり-**

要介護者の増加に対応するため、フレイル予防や認知症予防につながる活動やエアロビクスの開発を進めている。近隣の介護施設で実践させていただき、試行錯誤を重ねている。



PBLアドバイザーの指導



生徒主体の企画立案プロセス



VRコンテンツの開発



映像系専門学校との協働



介護職員へのインタビュー



FUKUSHI FESでの発表



エアロビクスの開発

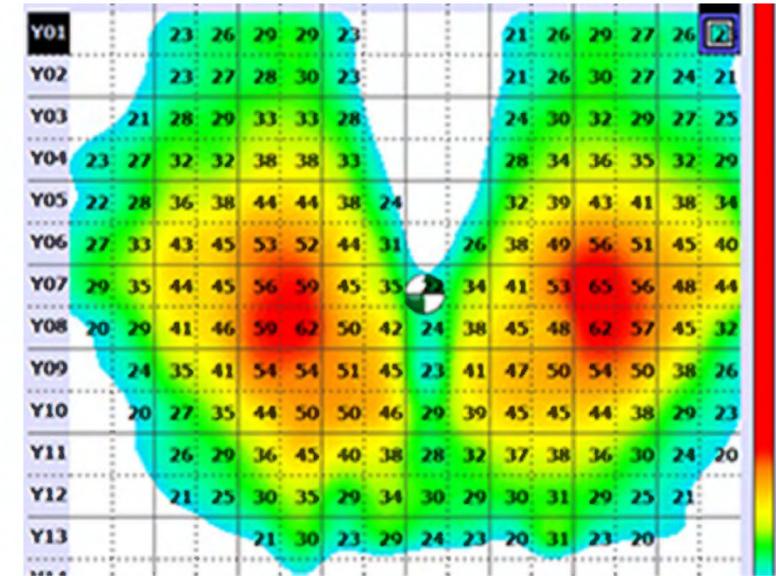


動きに合わせた音楽の制作

各チームは3つの分野から関心のあるテーマを選び、チームを構成する。「認知症の方や家族が孤立しない場づくり」「子どもたちの共に生きる力の育成」「介護職の魅力が伝わらない状況の変革」「高齢者が楽しみながら健康を維持できるコンテンツ開発」といった地域の福祉課題を設定する。こうした課題を出発点に、生徒たちはPBLアドバイザーの助言を受けながら、自らの問いを深め、解決策を“地域に寄り添う形”で検討していく。

1 科学的裏付けに基づく介護 (EBC)

データ分析からの気づき

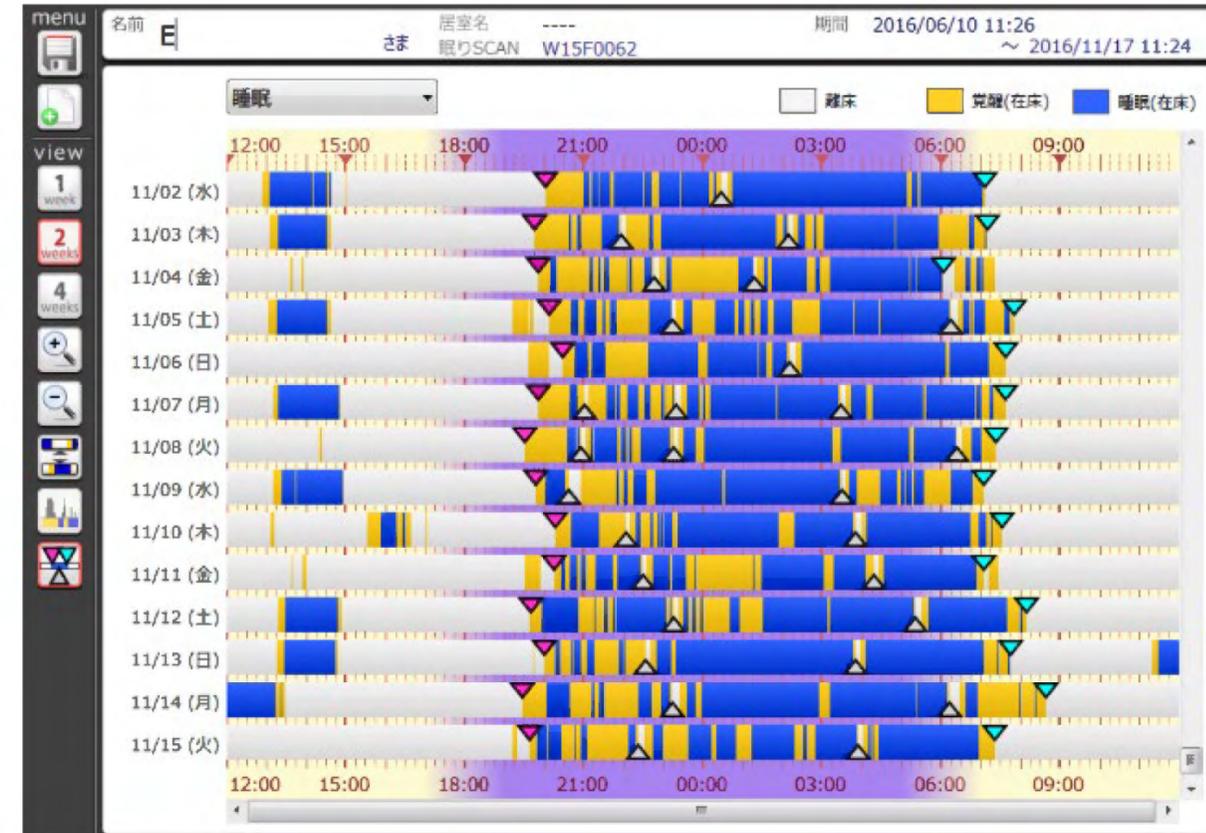


歩行測定では歩幅や重心の揺れ、左右バランスといった情報が可視化されるため、歩行状態を客観的に理解できる。歩行のくせや靴のすり減り方、杖をつく位置など、転倒リスクにつながる要素を多角的に捉えるアセスメントの視点が広がった。

また、体圧分布の学習は3年次の介護実習でも活用された。車いすで食事をしていた利用者から「臀部が痛い」との訴えがあった場面で、生徒は足台に足を置いたままの姿勢では臀部に圧が集中する可能性が高いと判断し、「いすに移り替えて姿勢を整えた方が痛みが軽減するのではないか」と職員に提案した。

2 科学的裏付けに基づく介護 (EBC)

テクノロジーとの向き合い方



2年生・男子

離床センサーでは、アラームが鳴ってから利用者さんのもとへ行くと介護者の負担が大きいため、まずはその人の特性を理解するためにセンサーを使用し、そこから得た情報を解析、分析しアラームが鳴る前に利用者さんの対応ができるようにしたい。



2年生・女子

AIは、行き詰まったときに新しい視点を与えてくれる。だけど、AIの判断をそのまま介護に使うと、本当のニーズを見逃す危険もある。だからこそ、AIは“情報を広げる道具”として活用し、利用者に寄り添う判断は私たちが担うことが大切。

3 課題解決型学習 (KOCHINO PBL)

試行錯誤を通じたレジリエンスの育成



市内で認知症カフェを立ち上げることになり、本校生徒も開設当初から関わってきた。カフェのテーマは、「認知症の人をまんやかに、安心できる場をつくること」。参加者同士の会話や気持ちの聴き取りを重視していた。一方、生徒たちは、レクリエーションを通して交流の時間を設けたいと考えていたが、その提案は採用されなかった。

改めて話し合いを行った結果、「参加者に本当に必要な活動とは何か」を再検討したうえで、回想法の考え方を取り入れた“昔遊び”を提案したところ、参加者から良い反応があり、主催者側もその効果に新たな気づきを得ることができた。この提案には、生徒が他の科目で学んだ「薬に頼らない認知症ケア」の知識が生かされていた。また、生徒にとっては、困難を乗り越える力（レジリエンス）を高める経験にもなった。

4

課題解決型学習 (KOCHINO PBL)

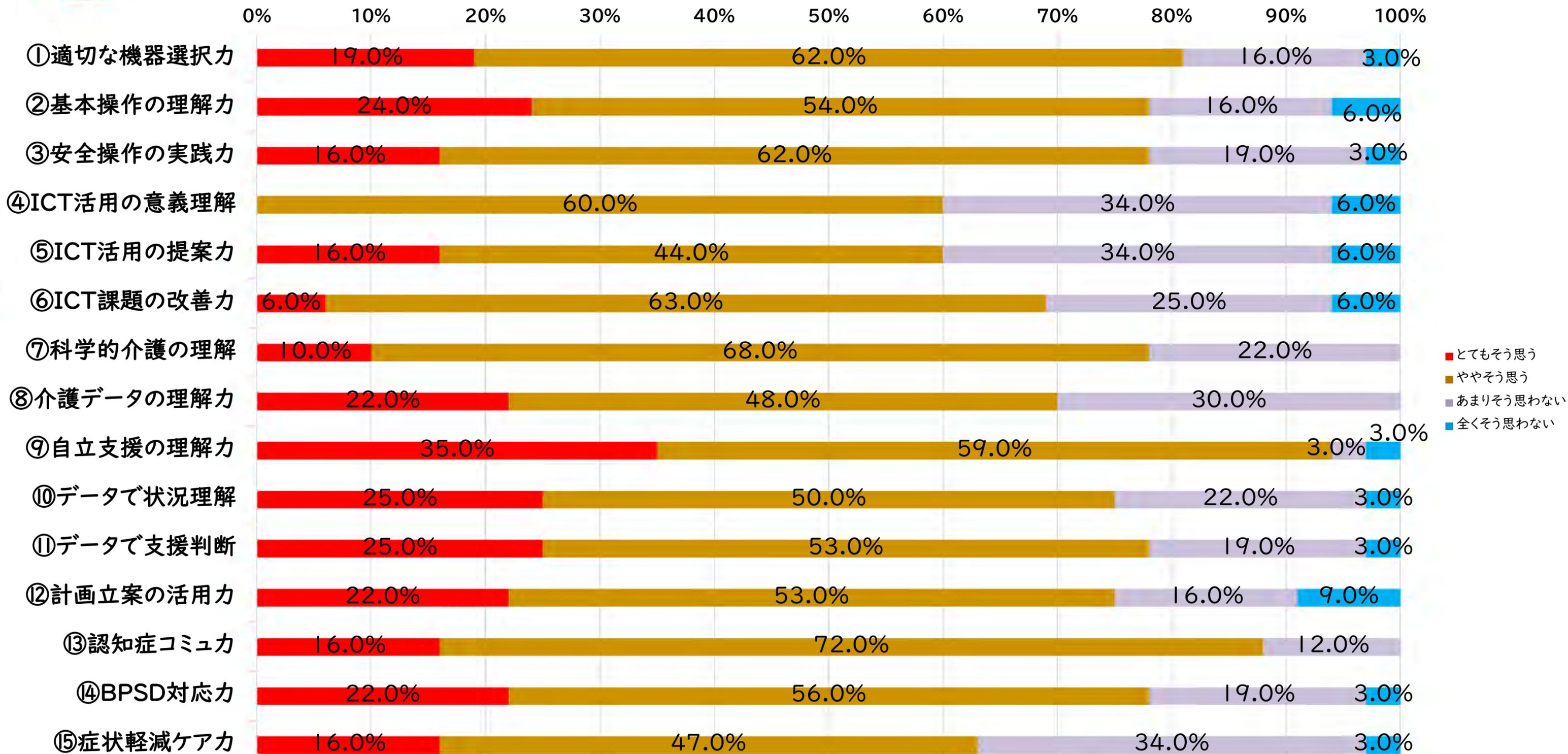
専門性を越えて生まれる学びの価値



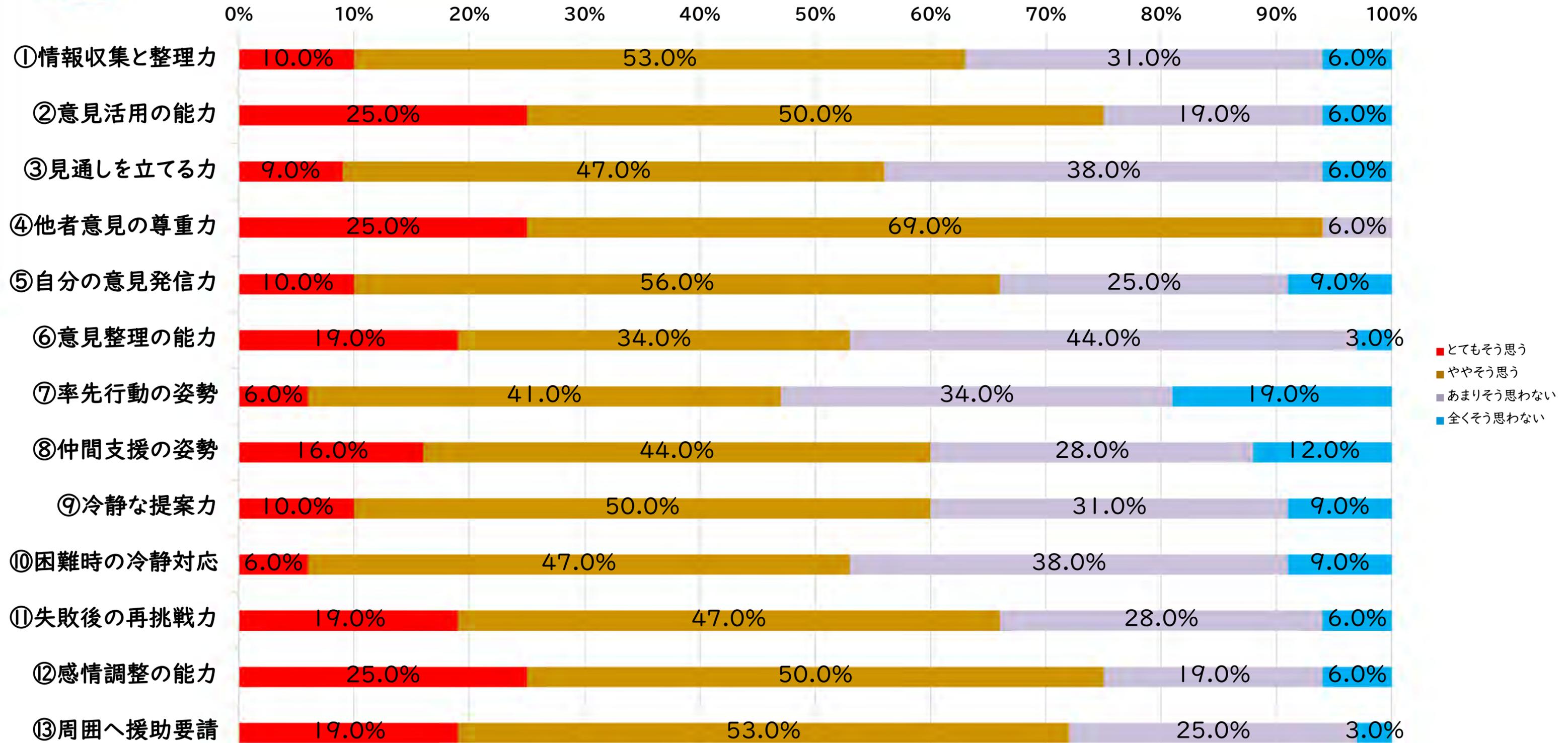
認知症VRコンテンツの開発では、映像系専門学校の学生と協働。専門学生は福祉初心者のため、「認知症の症状で幻視が見える」と説明しても伝わらない。生徒たちは、症状名だけでは相手に十分伝わらず、自分自身の理解も浅かったことに気づいた。そこで、認知症専門看護師やグループホームの職員に「当事者にはどのように見えているのか」を丁寧に聞き取り、その内容をもとに専門学生へ分かりやすく説明し直した。一方で、福祉科の生徒は映像制作の素人であり、専門学生から撮影技術や構成の工夫を学ぶ場面も多い。他分野と協働することで、互いが今まで持ち得なかった視点が生まれている。

介護予防プロジェクトでは、高齢者が思わず体を動かしたくなるようなポップな音楽に合わせたエアロビクスの開発を進めている。音楽教員からリズムやテンポの作り方の助言を受けるなど、教科横断的な連携も芽生えている。

5 令和6年度生徒評価アンケートより(科学的裏付けに基づく介護)

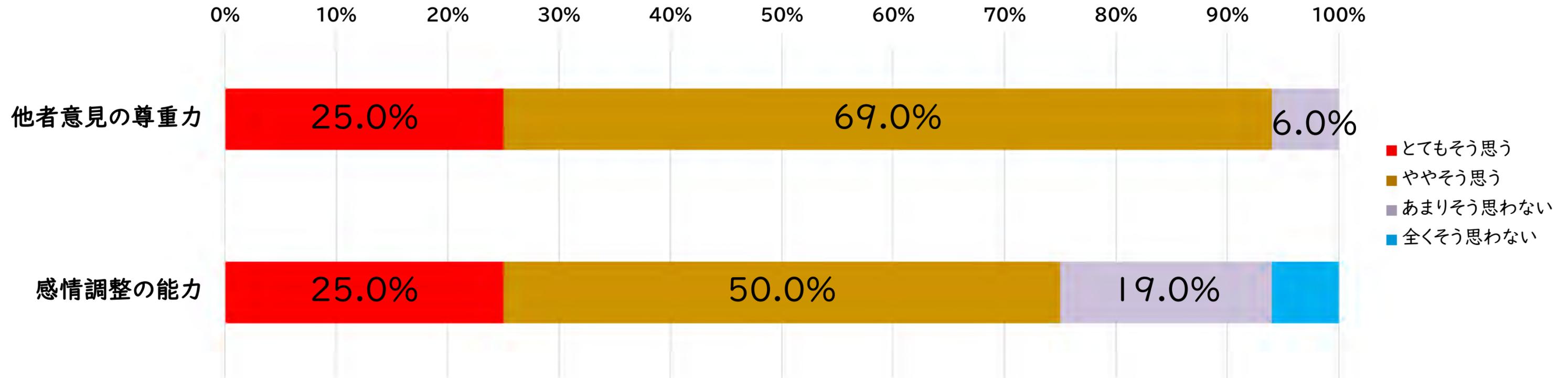


6 令和6年度生徒評価アンケートより（課題解決型学習）



7 令和6年度生徒評価アンケートより(抜粋)

課題解決型学習(コミュニケーションスキル/レジリエンス)



PBLを振り返って



2年生・女子

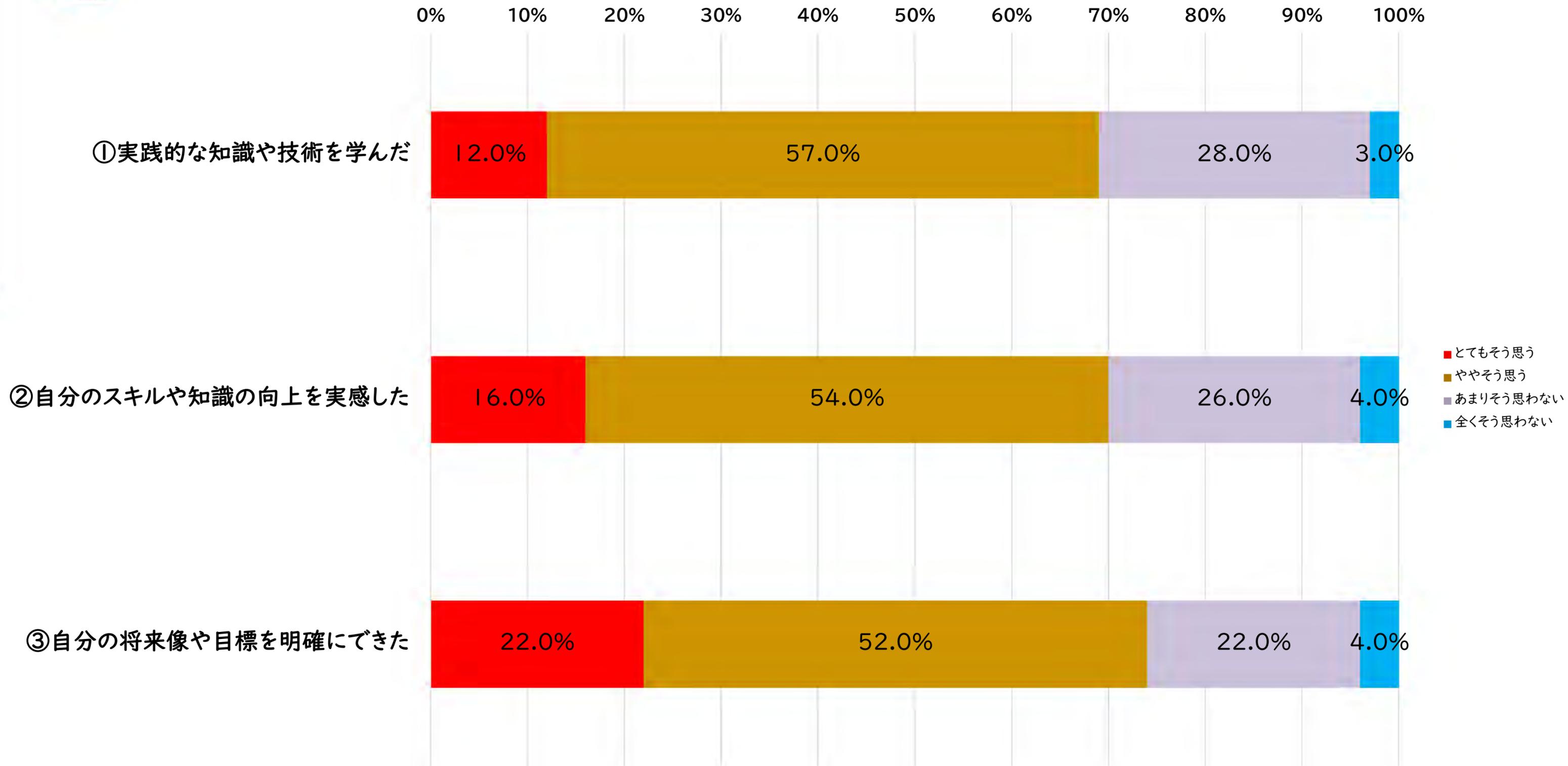
仲間と協力してプロジェクトを進めていく大切さを実感した。自分たちが、本当に地域の役に立つのか不安だったが、しかし、チームの仲間とさまざまな意見を出し合い、より良いプロジェクトとして地域に貢献することができた。将来、介護の現場で働く時にも、介護職員同士互いに声を掛け合いながら、利用者の方にとって安心できる支援を生み出していきたい。

PBLを通して、自分の意見を少しずつ言えるようになった。これまでは周りに合わせてしまうことが多かったが、“よりよいものを作りたい”という思いから勇気を出して発言してみると、仲間が受け止めてくれ、自分の考えが形になっていく嬉しさを知った。将来は介護の現場で、利用者の方のために自分の意見を大切にしながら、仲間と協力して質の高い支援を届けられる介護福祉士になりたい。



2年生・女子

8 令和6年度生徒評価アンケートより（産業界と連携した効果）



9 成果の横展開

古知野高等学校
福祉科
マイスターハイスクール
公開授業

お待ちしております！
ぜひお越しください！

①科学的介護の実践

講師 ガーデンハウス今伊勢 施設長 榎原 瑞恵 様

テーマ	公開授業 日程
科学的介護の実践 【歩行】	9月19日(金)・9月26日(金) 2~4限 (9:55~12:45)
科学的介護の実践 【水分】	10月10日(金) 2~4限 (9:55~12:45)
科学的介護の実践 【排泄】	1月16日(金)・1月23日(金) 2~4限 (9:55~12:45)

テーマ	公開授業 日程
科学的介護の実践 【食事・認知症・暑取り】	1月30日(金)・2月6日(金) 2~4限 (9:55~12:45)

【会場】看護実習室（北館2階）

②ケアデータの分析

講師 同朋大学 下山 久之 様 牛田 篤 様

テーマ	公開授業 日程
排泄リズム (基礎知識)	9月19日(金) 3~4限 (10:55~12:45)
排泄リズム (事例検討)	9月26日(金) 3~4限 (10:55~12:45)
安楽な姿勢 (基礎知識)	12月5日(金) 3~4限 (10:55~12:45)
安楽な姿勢 (事例検討)	12月12日(金) 3~4限 (10:55~12:45)

テーマ	公開授業 日程
安全な歩行 (基礎知識)	1月9日(金) 3~4限 (10:55~12:45)
ボディメカニクス (基礎知識)	1月23日(金) 3~4限 (10:55~12:45)
介護DXまとめ	2月6日(金) 3~4限 (10:55~12:45)

【会場】リハビリテーション室（北館1階）

③認知症ケアの実際

講師 株式会社森津介護サービス ホーム長 管田 真大 様

テーマ	公開授業 日程
パーソン・センタード・ケア	9月18日(木) 5~6限 (13:25~15:15)
認知症の人の コミュニケーション	10月9日(木) 5~6限 (13:30~15:20)
認知症状を軽減させるケア①	11月20日(木) 5~6限 (13:30~15:20)
認知症状を軽減させるケア②	12月11日(木) 5~6限 (13:25~15:15)

テーマ	公開授業 日程
認知症への 多様なアプローチ	1月8日(木) 5~6限 (13:25~15:15)

【会場】リハビリテーション室（北館1階）

①当日は、校内の掲示をご確認のうえ、案内に沿って会場までお越しください。
②受付は授業開始の10分前より行います。開始時刻にあわせて、余裕をもってご来校ください。

お問合せ | 愛知県立古知野高等学校福祉科 担当：高木
☎0587-56-4768 (進路指導室直通)

お申込みは、右記の
QRコードから

11月11日は いい日いい日 介護の日

11月11日は介護の日。
「いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう」を
念頭に介護の日が設定されています。
今注目の「介護DX」とは!?
小田井涼平さんと一緒に
これからの介護のかたちを
探ります。

人とテクノロジーが支える、新しい介護!?

沢井 里奈

名古屋市出身。
アイドルグループdebutの元キャプテン。

小田井 涼平

歌唱グループ・純烈の元メンバー。
俳優・タレントとして活躍中。

📺 **スペシャル版配信中!**

**愛知県・介護の魅力
発信チャンネル**

コチラもCHECK! 介護の仕事や職場などに関する
様々なゴカイを解いていく

\\愛知県公式介護職情報サイト//
介護の魅力ネット・あいち

あいち介護の日 2025

いい日いい日介護の日

2025

11/1 ⊕ 1:26~	ミライの介護業界を担う!DX高校生
11/2 ⊕ 13:50~	DX高校生/本音トーク
11/8 ⊕ 1:54~	最先端! DX介護の現場
11/9 ⊕ 11:45~	DX介護の現場/本音トーク

メ〜テレにて
放送決定

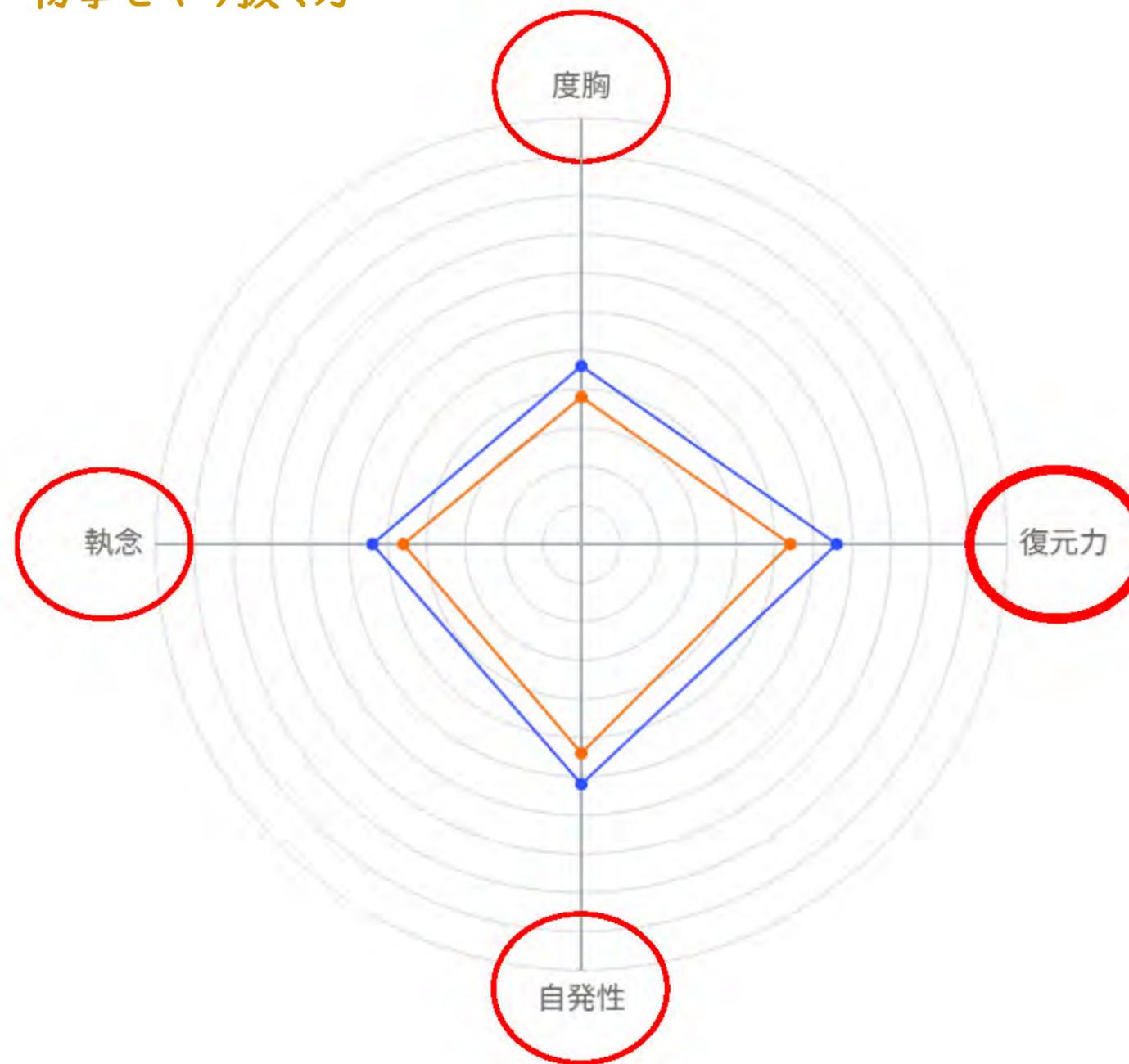
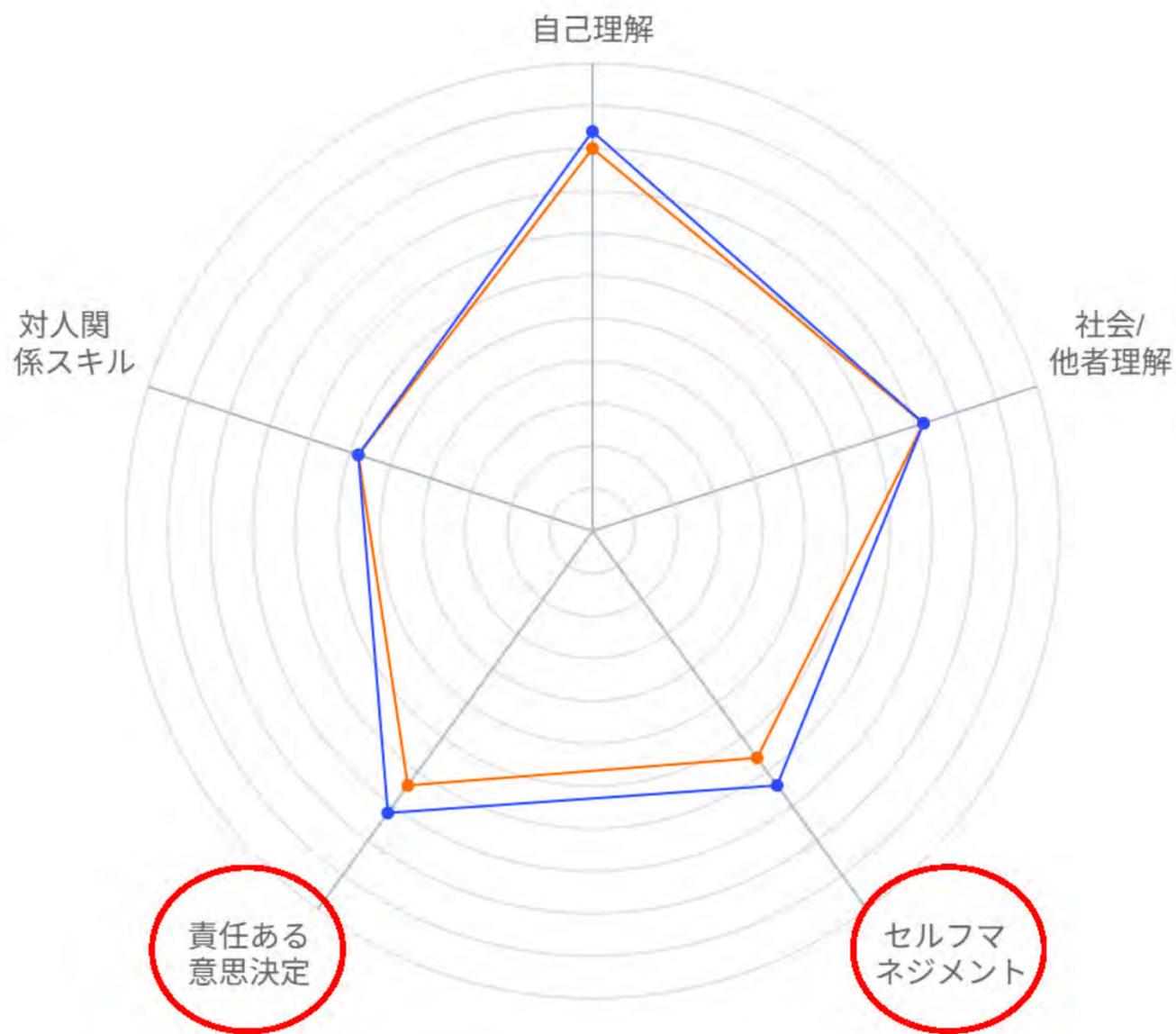
みてね~!

音声コード

1 非認知スキルの可視化 (Edv pathの活用)

自分や他者の気持ちを理解し、自分を動かす力

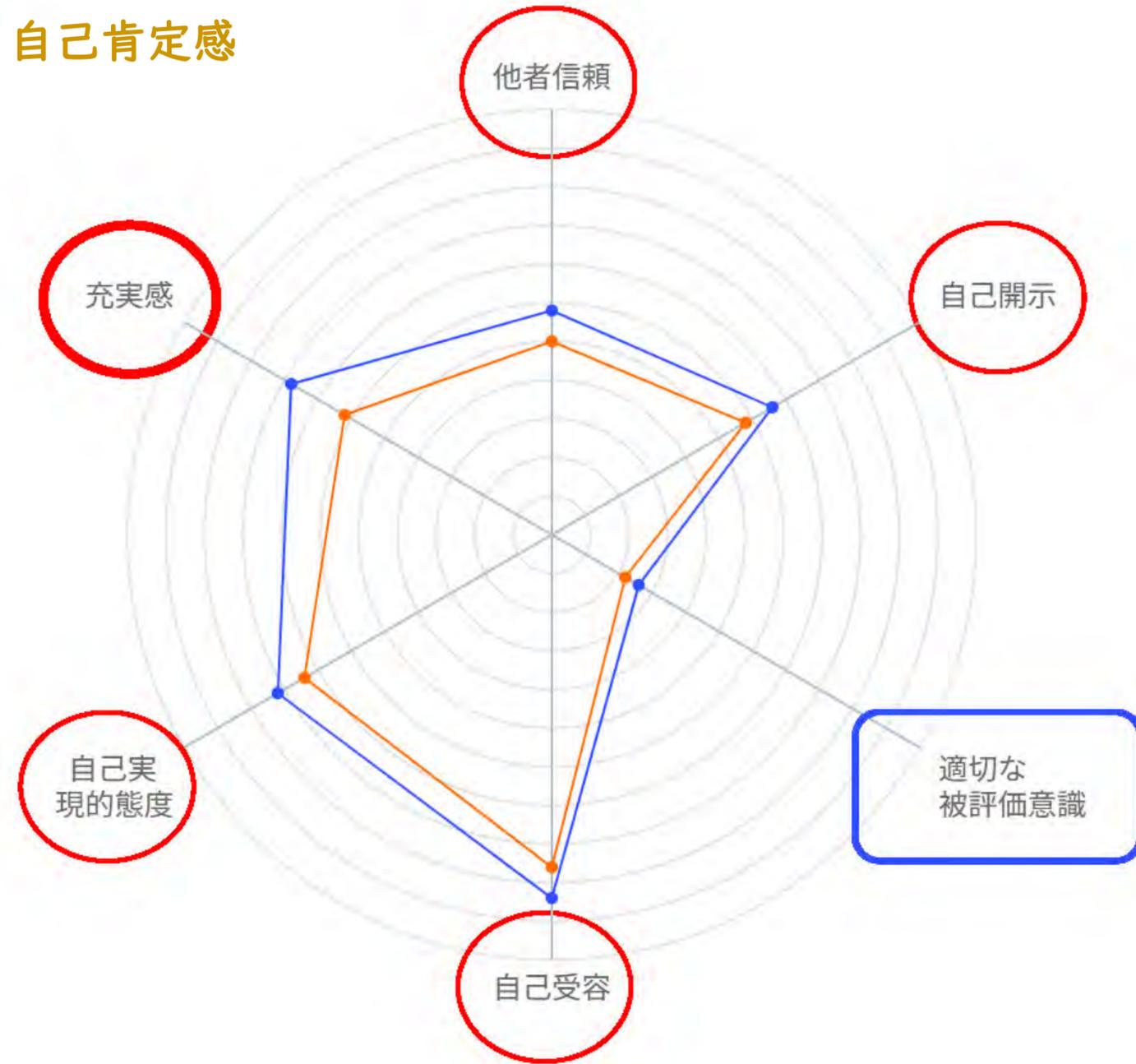
物事をやり抜く力



2025年9月 2025年12月

2 非認知スキルの可視化 (Edv pathの活用)

自己肯定感



「適切な被評価意識」については、全国平均と同等の値を示しており、他の項目と比較して相対的に低い値である。

「他者の評価をどのように学びに活かすか」という点は、本校生徒にとっても共通する課題であると考えられる。一方で、「充実感」や「他者信頼」の値が上昇していることから、被評価意識については現在、変容の過程にあると捉えることも可能であり、その水準を一概に評価することは難しい。

今後の対応としては、適切な評価基準を明示することや、評価が次の学びにつながるものであるという認識を生徒と共有すること、自己評価と他者評価を往還させる学習活動の工夫、教員や生徒による具体的な言葉を用いたフィードバックの充実などが考えられる。

1 自走に向けて

連携の座組

- ・MHSの委員会に代わる新たな会議体を設置する
- ・古知野高校を核に地域の福祉人材を語る場とする

江南市の福祉事業者・関係者を中心に構成

産業界とはWIN-WINな関係を重視

自走のしくみ

- ・これまでの授業実践を福祉科教員全体で継続する
- ・個人依存ではなく学校全体として取組を継続する

持続の鍵

- ・企業側の負担を、広告価値・研修価値として可視化する
- ・年度末に産業事務家教員にアンケートを実施する

補助事業終了後も続く自然な連携関係を目指す



管理機関より

1 県内福祉科高校の現状と課題

2 地域福祉をめぐる今後の課題

3 管理機関としての今後の役割



1 県内福祉科高校の現状と課題

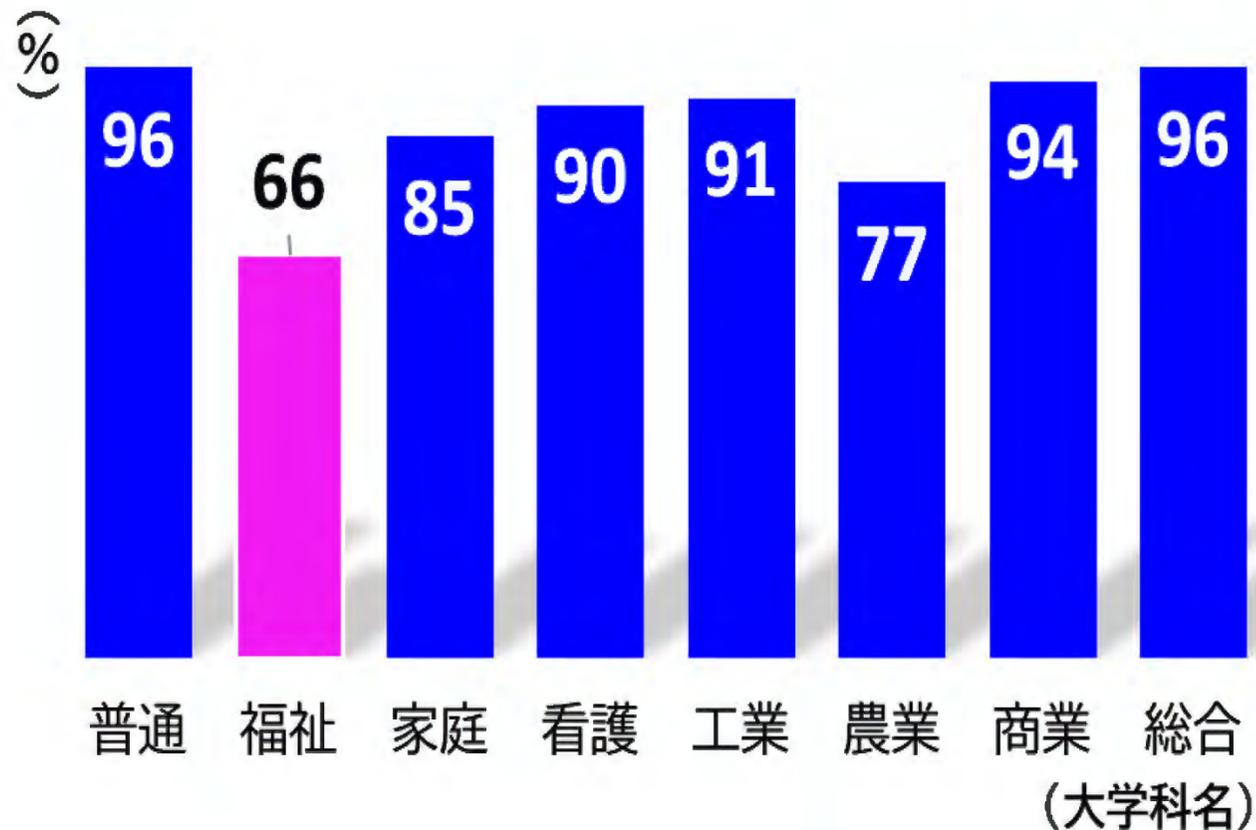
(1) 入学者数の確保

(2) ICT・DX活用の推進

(3) 福祉科高校や産業界との連携強化

(1) 入学者数の確保

県立4校で福祉科を設置
各校1クラス 40人募集



学科ごとの募集定員に対する充足率

※令和7年度愛知県公立高等学校入学者選抜結果より

令和7年度

福祉科充足率は66%

⇔ 第1志望入学者割合は他学科より高い



目的意識をもった生徒育成

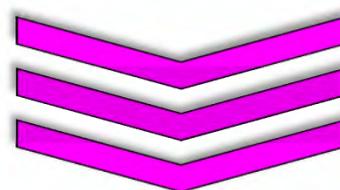
SNS等で魅力発信



② ICT・DX活用の推進

③ 福祉科高校や 産業界との連携強化

「ICT・DXを活用し、一人ひとりに応じた、
質の高いケアを実現できる人材育成」が目標



拠点校の取組・成果を
他校に還元

産業界との
新たな連携の創出



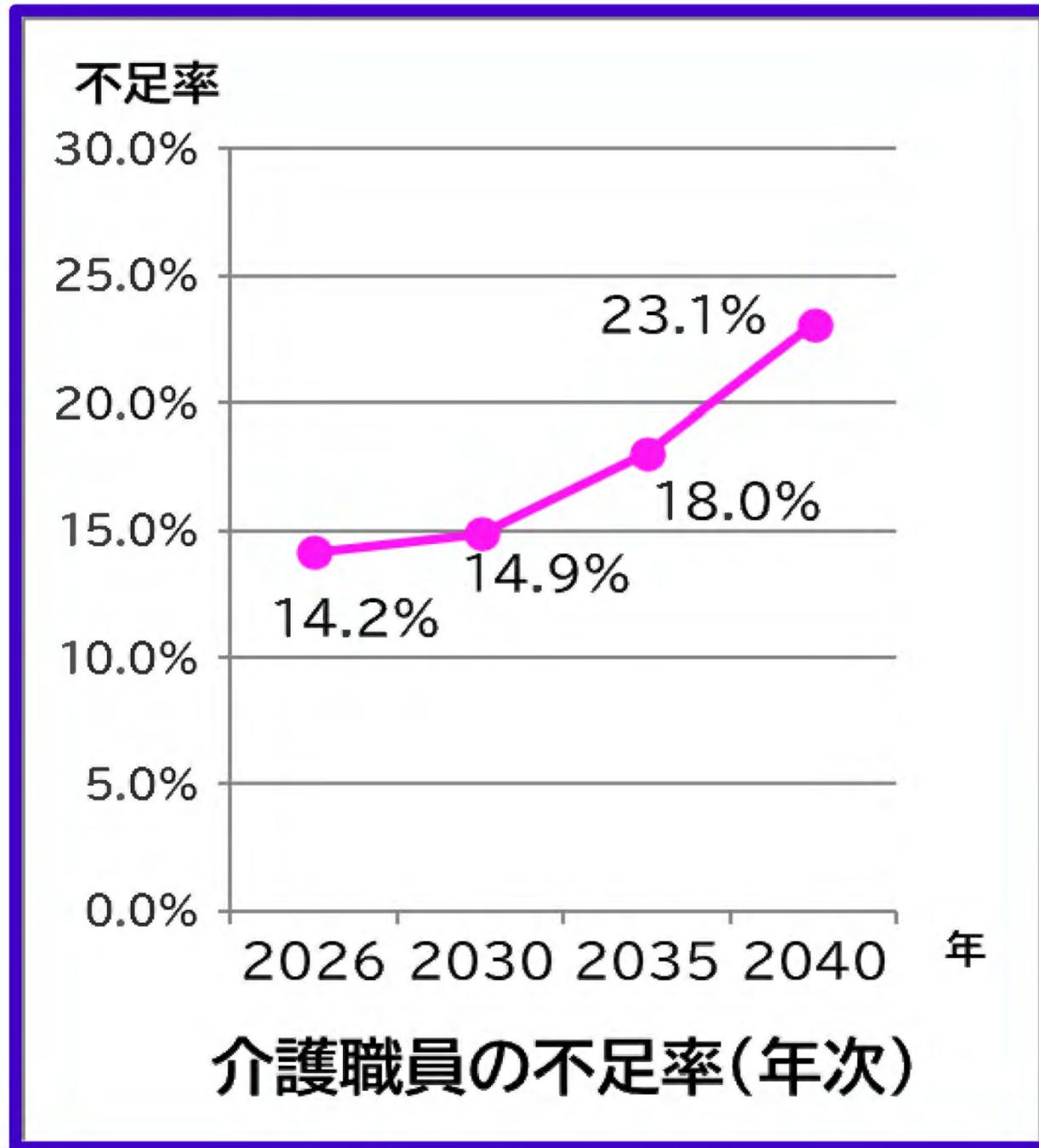
2 本県の福祉をめぐる今後の課題

福祉教育の
充実と発展

介護人材の確保



本県の介護人材の将来推計



介護人材不足率

23% (2040年予測)

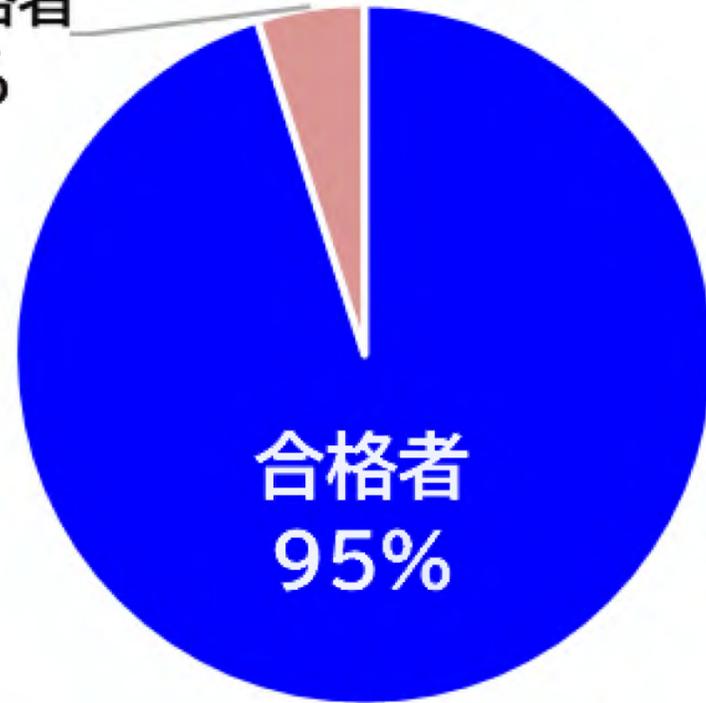
質の高い人材の
安定確保

※「第9期愛知県高齢者福祉保健医療計画」(2024年)を元に作成

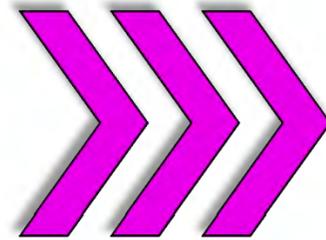
※不足率とは、「需要に対してどれだけ供給が足りないかを割合で示したもの」

福祉科の「介護福祉士」国家試験取得率・合格率

不合格者
5%



合格者
95%



全国平均より高い合格率 🙌

(全国平均 94%)

「介護福祉士国家資格」合格率
(R6度)

※令和7年度 「福祉科教育に係る状況調査」より
(卒業生数 全103名)



めざすカタチ

即戦力
人材

+

地元就職

地域を支える
介護人材の確保

3 管理機関としての今後の役割

福祉科高校への産学連携やICT活用の知見の還元

他の職業学科への産学連携の知見の共有

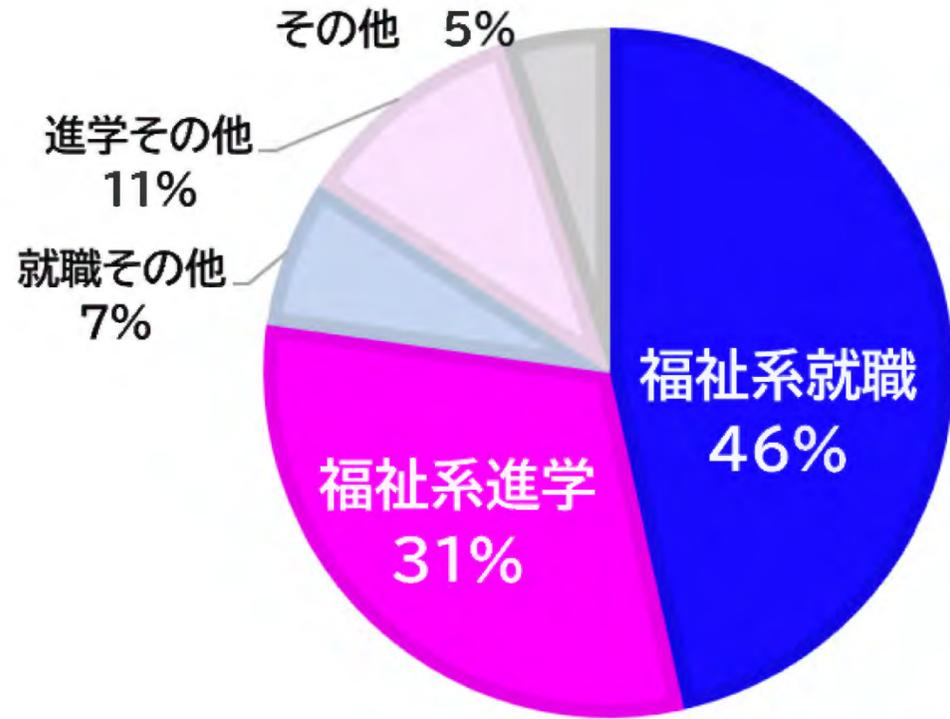
古知野高校の“自走”への支援

育てたい
人材像の確立

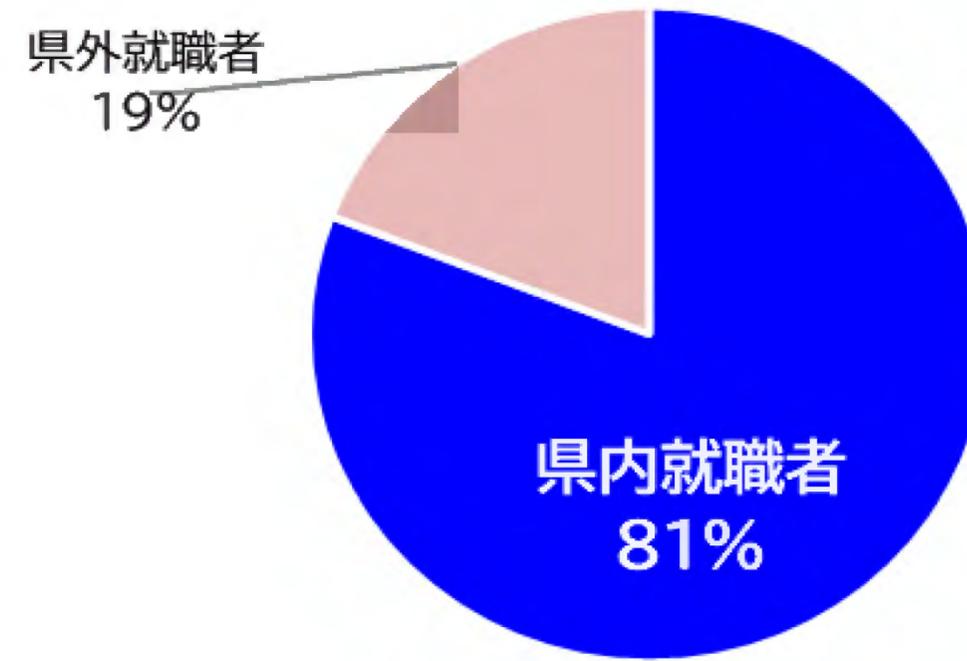
ネクスト・
ハイスクール
構想に生かす

福祉科の進路状況

※令和7年度「福祉科教育に係る状況調査」より
(卒業生数 全103名)



卒業生の進路割合(令和6年度)



福祉科4校の「福祉・介護分野」
県内就職者割合(%)



卒業生の約8割が
福祉医療関連の進路

「福祉・介護分野」就職の
約8割が県内就職

福祉科での学びを生かした進路の実現
DX時代をリードする、地域の高度介護人材として期待

介護人材確保&福祉教育の発展・充実のために

即戦力人材の
地元就職の推進

介護職・福祉科の
魅力発信

福祉事業の活性化

他部局との連携による
“自走”への支援

福祉系高校生徒に
かかる修学資金貸付
事業の充実

児童期からの福祉・
介護の学習の充実

地域社会のウェルビーイング実現のために

福祉教育の現場と産業界が連携し、
魅力ある学びの深化を続けていく

ご清聴ありがとうございました

